総合教育センターだより

121号　平成29年9月発行　山梨県総合教育センター

夏季研修会を終えて

研修指導部

７月２１日から８月１８日までの約１ヶ月間，平成２９年度夏季研修会を開催しました。研修数は166研修（外部共催研修も含む），参加人数はのべ5,355人になりました。最も多い日は350人あまりの参加者があり，駐車場等で多くの先生方に御不便をおかけしたこともあったと思いますが，皆様の御協力のおかげで無事終了することができました。ありがとうございました。

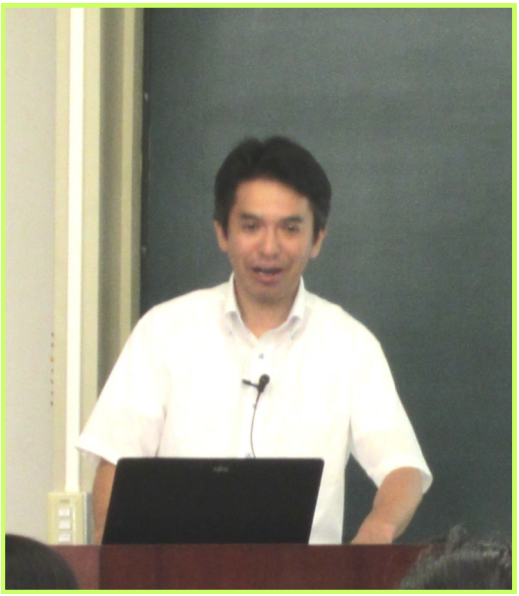
本センターでは「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」を基本方針に据えて業務に取り組んでいます。先生方の資質能力の向上はもちろん，学校現場への還元ができるような内容・形態の研修会を企画運営してまいりました。多くの研修会で「役立つ内容であった」「２学期からの実践に生かしたい」という御回答をいただきました。参加された先生方の率直な御意見は大変重要です。今後も企画する側と，受ける先生方が一体となり，よりよい研修となるよう努めて参ります。

さて，現在，県教育委員会では，山梨県教員等育成指標及び研修計画策定に取り組んでいます。本センターにおいても，それを受け，先生方のキャリアステージに応じた研修の検討を行っています。先生方の資質能力の向上並びに学校の教育力の向上のために，今後も本センターの研修を御活用いただければ幸いです。

平成29年度夏季研修会の様子

初任者研修会

先取り！新学習指導要領
育成すべき資質・能力を明らかにした授業づくり
～国語科における言語活動の充実研修会～



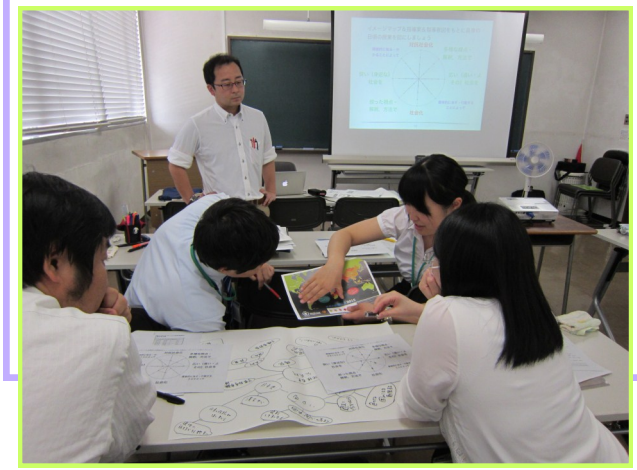
台風の影響により１時間遅れで始まった午前の講義でしたが，「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に有効な実践事例や，児童生徒の実態把握に努め，目標に準拠した評価の方法を学びました。

午後は，文部科学省の教科調査官 菊池英慈先生に，改訂の前提となる国語科の課題をふまえた学習指導の改善・充実に向けた最新の情報を提供していただきました。

「言葉による見方・考え方」が働くよう，児童生徒が言葉に着目し言葉に対して自覚的になるよう，また，児童生徒に付けるべき力を確実に付けることができるよう，指導の工夫・改善に取り組む先生方の姿が期待できる研修会となりました。

深い学びに導くためには
～高校地歴・公民科アクティブ･ラーニング活用研修会～

本研修は，深い学びに導く「探求する場面」を授業にどのように設定していくかを，講義・実践発表・演習を通して理解を深め，授業力の向上を図ることを目的に実施しました。講師は，山梨大学の後藤賢次郎准教授です。午前中は地歴・公民科の学習指導法の工夫改善という視点から，教科に関するイメージマップ作成や授業のレーダーチャート化を通して，受講者の授業を振り返りました。午後はアクティブ･ラーニングの方法や事例について理解を深めた後，受講者が持ち寄った指導案をもとに発表・意見交換を行いました。



受講者からは，「どういった視点で授業を作れば良いのか，参考になった」といった声が寄せられ，今後の授業づくりを考える良い機会となりました。

数学的活動の充実と
より効果的な評価問題の作成
～明日から使える中学校数学科指導法研修会～

本研修会は，授業における数学的な活動の充実をベースとし，評価問題の在り方を実践的に学び，指導力を高めることを目的に実施しました。講師の清水宏幸山梨大学准教授からは，文部科学省学力調査官・教育課程調査官として新学習指導要領編成に直接関わられた経験をもとに，授業改善や指導力の向上に資する最新の内容を，具体的に，わかりやすく教えていただきました。

特に，指導と評価の一体化から適切・的確な問題づくりについて，演習を通して，より深く学び合うことができました。

受講者からは「目的を明確にして問題を作成することが大切だと感じた」「力をつけさせるためには数学的な活動が必要であり，その上で，力がついたことを判断するための評価問題が必要であることがよくわかった」などの声が寄せられ，大変有意義な研修会となりました。

素粒子の世界　　わかっていること・これからのこと
～理科教員ステップアップ研修会～

本研修会は，理科教員としての資質の向上を図るため，自然科学分野の最先端について学ぶことを目的として毎年実施しています。今年度は高エネルギー加速器研究機構・菊谷英司准教授から，「すべての物質は，原子という粒子からできている。その原子自身は素粒子からできている。」という素粒子について現在わかっていることやその考え方，また加速器を用いての素粒子の「創り方」についての御講演をしていただきました。

受講者からは，「ニュートリノなどの素粒子が生活にどのように役立つのかは，今は考えられていないようだが，近いうちに宇宙の始まりがハッキリと解明されるのではないか。」と感想が述べられ，宇宙へのロマンを掻き立てられたようでした。

思考ツールで磨く総合的な学習の時間研修会

本研修は「思考ツール～考えることを教えたい～」の著者である関西大学の黒上晴夫教授をお招きし，終日，講義やグループワークを行いました。思考ツールは，子供たちにとって考える方法を示し，考える面白さを伝え，伝えることをサポートするものであること，教師にとっては，思考を整理する際や子供たちの思考の支援をするものであることを学びました。

また，効果的な活用方法を学び，授業での活用場面を想定して各学校の単元計画を練りました。参加者の発表に対して，教授からは個々に貴重なアドバイスをいただくことができました。目標としてのルーブリックと授業設計が深い学びにつながるというお話も大変参考になりました。

移行措置か先行実施か
今後の外国語教育・英語教育の行方
～外国語活動から中学校英語への連携　理論と授業実践研修会～

本研修では，毎年文部科学省の直山木綿子教科調査官を講師に招いています。今回は特に，新学習指導要領の実施に向けて，学習指導要領のねらいや仕組んでほしい授業について，作成に携わった調査官から直接お話を聞けるまたとない機会となりました。

現行と新学習指導要領の両方にまたがる児童の指導上の留意点や移行措置と先行実施の違いのお話は教師の意識と対応の必要性を考えさせられました。また，他校種との連携を意識した授業実践発表や地域や校種を越えた先生方との意見・情報交換も大変好評でした。

本センター初開催　　プログラミング研修会

本年度は，小学校の先生方を対象とした「主体的・対話的に学ぶ小学校向けプログラミング基礎研修会」を実施しました。昨年度末にアクティブ・ラーニング用の台形型の机が整備された研修室を使用し，より対話しやすい環境の中，協働的な作業をしながら学ぶ研修会を目指しました。

内容は，スクラッチを使って画面上での動きを実現させたり，ロボットの動きを制御したりするプログラム作りを行い，研修会で得た知識をどのような学習場面で用いることができるかを協議しました。受講者からは，「実際にグループで相談したり，知恵を出し合いながらパソコンを操作したり，ロボットを動かしたりすることができて，プログラミング教育がどのようなものかを体験できてよかった。」といった感想が寄せられました。

特別研修会Ⅰを終えて　　研究開発部

『みんなの学校』とは　～共に学び，生きる力を育むチーム学校の創造～

本センターでは，全国的に活躍している専門家から学ぶ機会として，「特別研修会」を開催しています。今回は，大阪市立大空小学校初代校長を務められた木村泰子先生の講演とドキュメント映像『みんなの学校』の視聴でした。県内教職員約３００名の参加があり，木村先生の「歯に衣着せぬ」お話で，現場の先生たちへの力強いエールとなりました。

木村先生のお話は，どのように子供と向き合い，子供の生きる力を育むために，子供に学びながら，学校や家庭，地域でできる大人の役割を考える機会となりました。

普通の公立小学校の「大空小学校」は，不登校ゼロ。特別支援教育の対象となる特性のある子供達もみんな同じ教室で学びます。特性のある子供が，まわりの対応次第で，自分の居場所を見つけていける学校です。

木村先生のお話は，学校の在り方だけでなく，社会の在り方までをも問う内容でした。大空小学校は，これまでの概念を無くして，０（ない事）にしてーから始めたそうです。10年後を見据えた教育，そして，実際にあった事を例に分かりやすいお話しをされ，学校教育の原点や大人の在り方を突きつけられたように思いました。木村先生のブレないものの一つに，見えない学力のベースとなる「４つの力」の育成があり，「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」，この４つの力を使える子供を育てることを熱く語られました。

教員としての資質向上を目指して

平成29年度一般留学生　　髙波祐次（笛吹市立八代小学校）

総合教育センター一般留学生としての研修がスタートし，５ヶ月が過ぎました。昨年度までと全く違う環境に戸惑うこともありましたが，センターの先生方に温かく支えていただきながら，充実した研修生活を送ることができています。

私がセンターへの留学を希望したきっかけは，校内で行った国語の研究授業でした。教材研究を行い，指導案を作り，授業実践を行う。ある程度の自信を持って臨んだ授業でしたが，思うようにはいきませんでした。児童の主体的な学びにならない，授業で交流の場面を仕組んでも，それが理解や深い学びにつながらない。「何がいけなかったのか」「授業をどう作ったらいいのか」と考え，悩むことが多くなりました。そんな時，総合教育センターでの一般留学生制度のことを知り，希望しました。

現在は「国語科における言語活動の充実」をテーマにして，文献を読んだり，先行研究に学んだり，学習指導要領を片手に理論をじっくりと組み立てたりしながら，研究を進めています。その中で，国語の授業改善に向けて，「主体的・対話的で深い学び」の視点，「言語活動の充実」を意識すること，「目標と指導と評価」を一体的に考えること等が大切であることを学びました。また，自身の国語の研究を進める以外にも，算数や理科の指導方法，教育相談（ブリーフセラピー），タブレットを使った授業づくり等についてセンターの先生方に講話をしていただく機会もあ

お知らせ

平成29年度山梨県総合教育センター研究大会
実践交流ラウンドテーブル２０１８

平成３０年２月２２日（木）午後開催

①特別講演 講師 市川伸一先生

②センター研究・ポスター発表

③ラウンドテーブル

※　詳細は１１月下旬に御案内します。

YAMANASHI PREFECTURAL EDUCATION CENTER

編集発行　山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田１４５６
電話　０５５－２６２－５５７１
Fax　０５５－２６２－５５７２
発行責任者　所長　小川　巌
発行日　平成29年9月21日